



三代目の松

表紙の三本松は『往年、北条時頼がこの地を行脚の時植えられた』と伝えられる大樹で、この名松に因み、明治8年三本松村が誕生した。

その後、昭和7年4月には名木・巨樹・老樹として国の天然記念物に指定され、村民から親しまれてきた。

しかし、老衰のため枯れはじめ昭和30年天然記念物の指定が取り消され伐採された。

現在の三本松は、三代目の松で地域住民がその栄華を後世に残そうと育成している。

③ 安産寺・子安地藏



安産寺に安置されている子安地藏は重要文化財に指定されている櫃の一木造りで平安初期の作品。地域では安産にご利益がある仏様として大切に祀られ、素朴な田園風景と一体となる寺の風景が地域のシンボルとなっている。

④ 伊勢街道宿場町跡



かつては大和の江戸と呼ばれた伊勢街道の宿場町として賑わった。今も往時を偲ぶことができる『ぬしや』には伊勢講の看板がかかっている。道端の道標や常夜燈にその面影を垣間見ることができる。しかし、この界限も年々改築が進み、その面影が失われつつある。

⑤ 馬頭観音

この石仏は、江戸初期の作といわれる像高40cmで三面八臂の石仏である。この観音も密教に関係のある仏で名の縁から馬の守り神として民間信仰があつた。このホラデの地は古く弥生時代より農耕が営まれていたことから馬の飼育する農家が多かったことを物語っている。伝説によると『昔この地にいた馬がこの地を取り囲む掘りに落ちて死亡したため、その供養として祀られている』という話があり、足の病氣にご利益があるとされている。ご命日は9月17日である。



⑥ 道の駅「宇陀路室生」 こもれび市場



国道165号沿いにあり、地元が生んだ世界的な彫刻家故井上武吉氏のデザインによるもので、鳥が飛び立つ『飛翔』をイメージしたものになっている。

天井が高く三方ガラス張りで開放感があり、目に入る柱は室生産樹齢130年の杉を使い『木もれ陽の森』の愛称がある。

道の駅に隣接する直売所こもれび市場は『室生の地元野菜』にこだわり、新鮮な野菜・花・加工品等を販売。とくに四季折々の山菜に人気がある。

⑦ 長命寺(薬師さん)・琴引峠



御本尊は、薬師如来で病を癒す仏さんとして地域の人に親しまれている。寺に伝わる絵巻『長瀬山琴弾院長命寺縁起』によると、源義経が追手を逃れて流浪のときここに立ち寄り、病の平癒を願って琴を弾いたので『琴弾院』と称すると記されている。また、北条時頼がここで病にかかり、琴を弾いて慰めたという伝承もある。伊賀から大和に入ると最初に見える。一汗かいた旅人が一息ついた眺望のいい峠だった。この峠に数多くの岩があつて、源義経や北条時頼が琴を弾いたという巨岩があつたが、近鉄線路通すため峠が掘削された時琴弾岩は搬出されたという。この峠を登り切った所にある長命寺の境内には、峠にあつた岩の一つが『琴弾岩』として残されている。

⑧ 青葉の滝



青葉寺の奥の溪谷を行くと、神秘的な樹林の間から流れ落ちる青葉の滝にでる。この近くには竹藪があり、源平合戦の際に平敦盛が所有していた青葉の笛は、この藪の竹で作られたといわれている。また、清涼感に満ちあふれたこの滝は古くから行者の修練の場となっており、太鼓の音と読教の声が周囲の森にこだまする。

⑨ 海神社



祭神は豊玉姫命。応永3年(1396)、室生龍穴より善女竜王を迎えて祭祀したといわれ、雨乞いの神として知られている。社宝には善女竜王の掛け軸、高さ24cmの竜王像がある。桧材の板帳は宗旨改帳の役割を果たしたもので、わが国でも珍しい文化遺産となっている。

MEMO

① 大福寺



この境内には樹齢約千年と推測されるカヤの木が立っている。高さ約30m。幹周り約6.7mという常緑樹針葉樹の巨木でカヤとしての幹の太さは県内でも随一といわれ、奈良県の巨樹古木100選にも選ばれている。

② 白鳥神社(仮屋さん)



祭神はヤマトタケルノミコト(日本武尊)。世に言うヤマトタケルの『白鳥伝説』。日本書紀では、能煩野(のぼの=三重県)で亡くなったヤマトタケルの魂が大きな『白鳥』となって飛び立ち、大和の琴弾原に一度舞い降り仮の宿をとったあと再び大空に飛び去ったという。

村人は、ここを『仮屋さん』と呼び、神代の英雄の魂が飛来した尊い場所としてお祭りしているが、詳細は分からず伝説の域をでない。